

三島市

まちなか  
街中だがしや楽校運営協議会

伝統ある三嶋大社に子供たちの笑顔があふれる「街中だがしや楽校」。毎年好評にて昨年で12回目を迎え、近年の参加者は6,500人以上を継続している。他市町村との連携、会場となる地域の協力や各種ボランティア団体を実行委員会として組織し、地域の伝統に根付いた青少年健全育成に取り組み、成果につながっている。

### 活動内容等

<p>(1) 事業の目的及び活動の方向性</p>	<p>全国で開催されている「だがしや楽校」の一環として、静岡県東部在住の小中学生を対象とし、「お手伝い」という慈善活動や、経済活動の疑似体験を通じて、各種の知識・知恵の体得を目的とする。子供たちが「生きる力」を学ぶとともに、大人たちに子供たちと触れ合う機会を広く提供し、地域活性化を促進する。</p>
<p>(2) 活動体制等 (連携する団体、子供・地域住民等の参加状況、活動年数等)</p>	<p>主催：街中だがしや楽校運営協議会 共催：NPO 法人地域活性スクラブルフォーラム・三島年金協会・三島市子ども会連合会 後援：静岡県・三島市・沼津市・裾野市・伊豆市・伊豆の国市・函南町・清水町・長泉町・三島市及び周辺市町の教育委員会、各商工会議所、新聞社ほか イベント参加者は近年6,500～6,800人ほど。 平成20年より年1回継続的に活動にて、昨年で12回目、今年度は中止。</p>
<p>(3) 活動内容及び成果</p>	<p>内容：三嶋大社並びに旧下田街道周辺にて、ワークショップやステージ、出店などの仕事に対して積極的に「お手伝い」をする機会を子供たちに提供し、その「ご褒美」として当協議会の事業専用通貨「ぬびす券」を交付し、駄菓子との交換を行う。「ぬびす券」を交付する対象の仕事は、キッズパーク登録の各種社会体験及びワークショップ等を含む。 成果：近年、「お手伝い」をさせる家庭が減り、また、「お手伝い」をした子どもに「お駄賃」を渡す等伝統的な大人と子供とのコミュニケーションの機会も減少している。この活動を通じて、近年課題になっている子供の社会性の醸成やコミュニケーション能力の向上に寄与していると思われる。</p>